

## 第5章 環境配慮の検討・実施にあたっての取組体制

### 1 環境アドバイザー制度

#### (1) 背景

県管理の海岸堤防や河川堤防の復旧工事が本格化する段階になり、環境配慮を検討・実施する為に、自然環境に関する専門的な知識を有する学識者を含む検討体制を構築し、取り組んでいく必要があった。制度スタート時における、目的、制度導入フロー、体制や役割について、以下に示す。

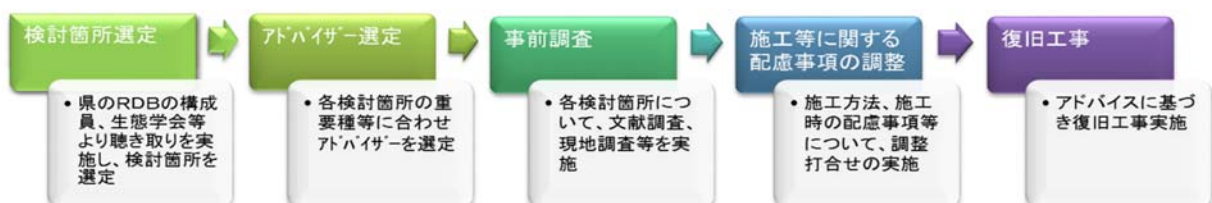
#### ○目的（設立時）

東日本大震災の大津波により、甚大な被害が発生した県内の沿岸部について、被災地の安全・安心を確保した一日も早い復旧・復興のためには、多重防御によるまちづくり計画の前提となる新たな基準に基づく河川・海岸堤防の復旧が急務である。

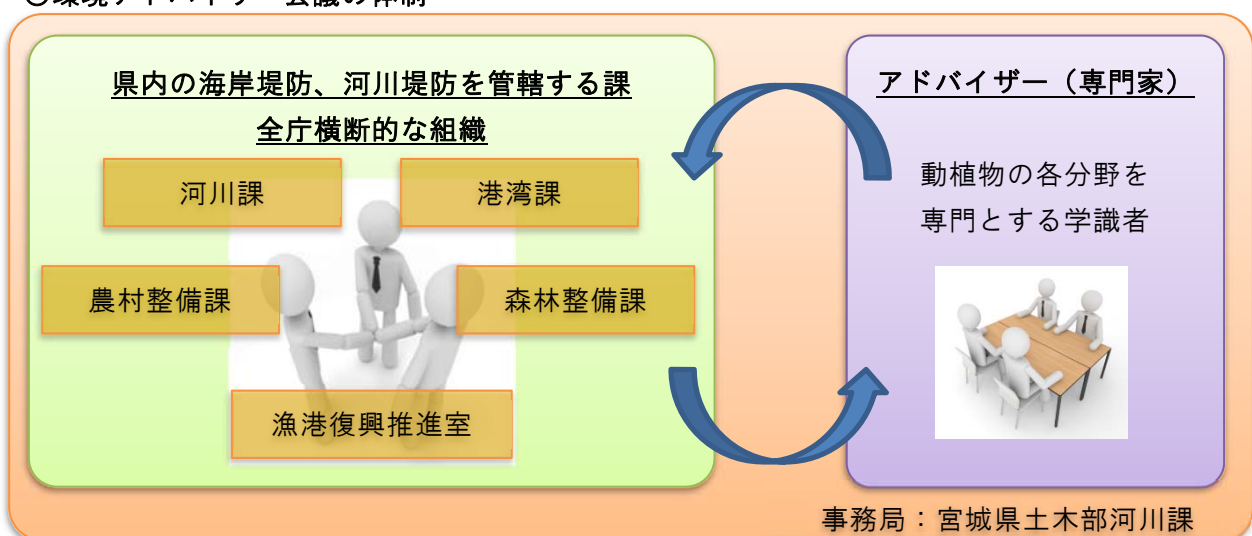
一方、大津波により、震災直後は、震災前にあった動植物の生息・生育環境の多くが流失したものと見られていたが、時間の経過とともに回復傾向が見られる動植物も確認されはじめている。

本制度は、河川・海岸堤防の復旧を進めるにあたって、各地区における自然環境（動植物）への配慮事項について、各分野の専門家・学識者より助言・指導をいただき、自然環境と共存した復旧工事を行うと共に早期に復興を進めるものである。

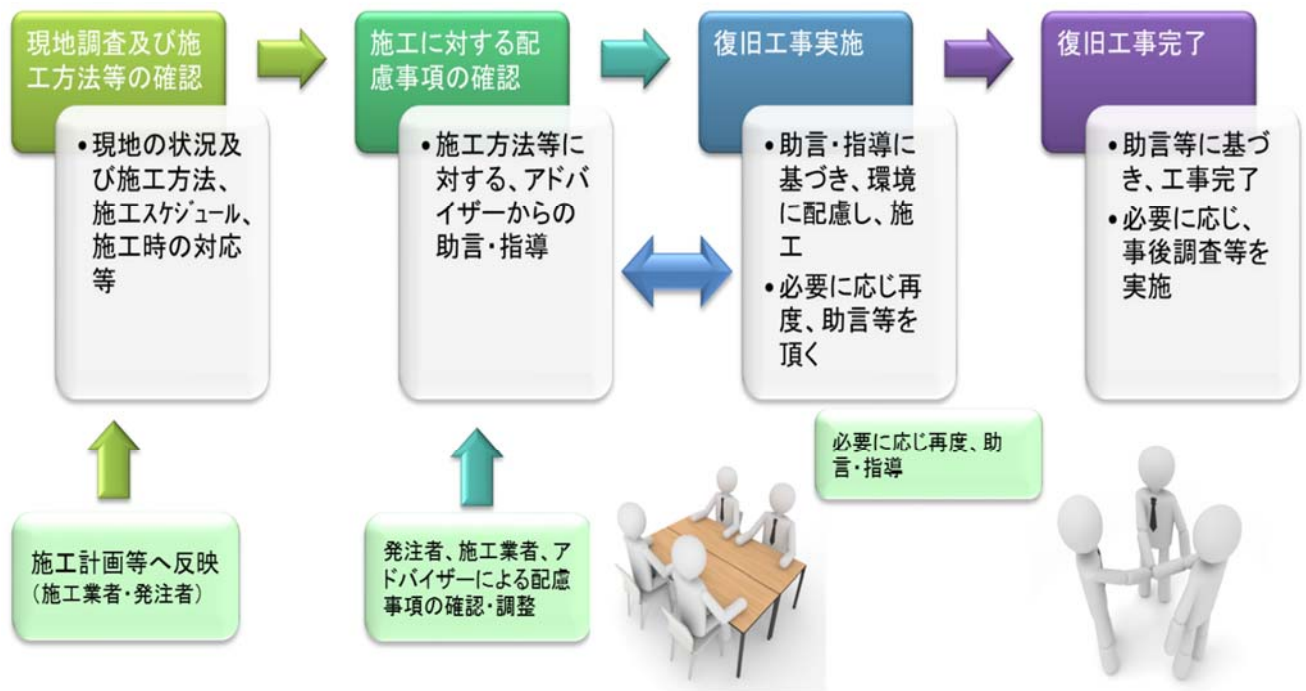
#### ○環境アドバイザー制度導入フロー



#### ○環境アドバイザー会議の体制



○施工等に関する環境配慮事項の調整の流れ



○宮城県環境アドバイザー会議の役割

○環境アドバイザー会議

- 全てのアドバイザー及び県（担当課室長、関係事務所長）で組織
- 会議運営：事務局（土木部河川課）
- 復旧事業箇所における環境への配慮事項について、全体的な情報共有を図る。

【会議の内容】

- ・ 対象箇所において、どのような配慮をしたかなどの事例紹介。
- ・ 対象箇所での問題点。
- ・ 全体的に調整が必要な事項

○各対象箇所打合せ（各河川・海岸毎）

- 担当アドバイザー及び県【担当事務所職員、請負業者等】で組織
- 各対象箇所について、工事に際し、どのような配慮が必要かなどについて、打合せを行う。

【打合せ内容】

- ・ 工事着手時、工事施工中、工事完了後の環境配慮について助言・指導を頂く
- ・ 現地視察により具体的な対応策の指導等



## (2) 委員構成

環境アドバイザー会議の委員構成を以下に示す。各分野で班長を任命し、班長会議及び全体会議の2構成で運営した。

平成30年6月1日時点の所属

氏名	所属・役職等	専門分野	就任期間	備考
ひらぶき 平吹 喜彦	東北学院大学 教養学部 地域構想学科教授	植物群落	H25.8 ~	班長
かんの 菅野 洋	東北緑化環境保全(株) 技術部 自然環境グループ	植物群落	H25.8 ~ H29.3	
ないとう 内藤 俊彦	宮城植物の会 顧問	植物	H25.8 ~ H29.3	
たきぐち 滝口 政彦	宮城植物の会 会長	植物	H27.7 ~	班長
すぎやま 杉山 多喜子	宮城植物の会 幹事	植物	H27.7~	
ねもと 根本 智行	石巻専修大学理工学部 生物科学科 教授	植物	H25.8 ~ H27.3	
すずき 鈴木 孝男	みちのくベントス研究所 所長	底生動物	H25.8 ~	班長
おおこし 大越 和加	東北大学大学院 農学研究科 教授	底生動物	H25.8 ~	
さとう 佐藤 慎一	東北大学 総合学術博物館 助教	底生動物	H25.8 ~ H27.3	
うらべ 占部 城太郎	東北大学大学院 生命科学研究所 教授	底生動物	H29.7 ~	
たかとり 高取 知男	元 仙台市科学館 副館長	魚類	H25.8 ~	班長
むなかた 棟方 有宗	宮城教育大学 教育学部 准教授	魚類	H25.8 ~	
みぞた 溝田 浩二	宮城教育大学 環境教育実践研究センター 准教授	昆虫類	H25.8 ~	班長
ながはた 永幡 嘉之	自然写真家 執筆	昆虫類	H25.8 ~ H29.3	
いがらし 五十嵐 由里	宮城昆虫地理研究会 幹事	昆虫類	H30.5 ~	
こむろ 小室 智幸	日本野鳥の会 宮城県支部 副支部長	鳥類	H25.8 ~	班長
たけまる 竹丸 勝朗	日本野鳥の会 宮城県支部 支部長	鳥類	H25.8 ~	

## 専門分野

植物群落 1名 植物 2名 底生動物 3名 魚類 2名  
昆虫類 2名 鳥類 2名 計 12名

## (3) 実施状況

環境アドバイザー会議のこれまでの実施状況を以下に示す。

現地確認を行う現地視察と、屋内で報告・検討等を行う会議形式により行っている。各回の活動報告については資料編に示す。

年度	開催日	会議等名	議題等
平成 26 年度	H26.8.6	第1回 環境アドバイザー会議	発足会
	H26.8.26	現地検討会（気仙沼・東部管内）	中島海岸 ～ 宮戸海岸
	H26.12.4	現地検討会（仙台管内）	菖蒲田海岸 ～ 五間堀川
	H27.3.9	現地検討会（気仙沼管内）	只越川 ～ 八幡川
平成 27 年度	H27.6.9	第1回 環境アドバイザー班長会議	環境アドバイザー班長について
	H27.7.15	第2回 環境アドバイザー会議	環境配慮基本方針について
	H27.8.24	現地検討会（東部管内）	州崎海岸 ～ 大沢川
	H27.10.30	第2回 環境アドバイザー班長会議	保全対策について（州崎海岸 他）
平成 28 年度	H28.5.31	第3回 環境アドバイザー班長会議	要綱改訂・年間予定について
	H28.7.20	現地検討会（仙台管内）	七北田川 ～ 蛭塚
	H28.9.6	現地検討会（気仙沼・東部管内）	戸倉海岸 ～ 州崎海岸
	H28.11.15	第4回 環境アドバイザー班長会議	現地検討会報告
	H28.12.15	第3回 環境アドバイザー会議	現地検討会報告
	H29.1.25	第5回 環境アドバイザー班長会議	環境配慮箇所の重点化について
平成 29 年度	H29.6.1	第6回 環境アドバイザー班長会議	年間予定について
	H29.7.25	現地検討会（東部管内）	十八成浜～州崎海岸
	H29.8.1	現地検討会（気仙沼管内）	只越川～志津川漁港海岸
	H29.8.25	現地検討会（仙台管内）	七北田川～蛭塚
	H29.11.16	第7回 環境アドバイザー班長会議	現地検討会報告
	H29.12.14	現地検討会（気仙沼管内） 鳥類	松岩漁港海岸～波伝谷漁港海岸
	H30.1.18	第4回 環境アドバイザー会議	現地検討会報告
平成 30 年度	H30.5.21	現地検討会（仙台管内）	七北田川（蒲生）
	H30.6.4	第8回 環境アドバイザー班長会議	年間予定について
	H30.8.7	現地検討会（東部管内）	大沢川 ～ 州崎海岸
	H30.8.20	現地検討会（気仙沼管内）	戸倉海岸 ～ 大谷海岸
	H30.8.22	現地検討会（仙台管内）	七北田川 ～ 蛭塚（鳥の海）
	H30.11.9	現地検討会（仙台管内）	七北田川（蒲生）
	H30.12.3	現地検討会（気仙沼管内） 鳥類	波路上漁港海岸～長須賀海岸
	H30.12.10	現地検討会（仙台・東部管内） 鳥類	七北田川～牧浜漁港海岸
	H31.1.25	第9回 環境アドバイザー班長会議	現地検討会報告
	H31.2.13	第5回 環境アドバイザー会議	現地検討会報告

年度	開催日	会議等名	議題等
令和 元 年度	R1.6.12	第10回 環境アドバイザー班長会議	年間予定について
	R1.6.17	現地検討会（仙台管内）	七北田川（蒲生）
	R1.8.19	現地検討会（仙台管内）	坂元川～閑上漁港海岸
	R1.8.26	現地検討会（気仙沼管内）	田中浜（大島）～志津川漁港海岸
	R1.8.27	現地検討会（東部管内）	十八成浜～長浜海岸
	R2.1.23	現地検討会（仙台管内）	七北田川（蒲生）
	R2.3月	現地検討会報告	新型コロナウイルス感染防止対策のため会議は開催せず、報告書を送付

## 【トピック：個々の検討会や協議会を立ち上げて住民との合意形成を進めた地区】

蒲生干潟のように法的規制により自然環境が保護されていた地域や、中島海岸・津谷川のように防潮堤事業に対する注目度が高く、地域住民との丁寧な合意形成が必要であった地域、五間堀川（貞山堀）のように歴史的な価値のある運河などについては、個々に検討会や協議会を立ち上げて、合意形成のための議論を深めた。このような対応を行った箇所について、以下に示す。検討会の開催結果や資料については県のHPを通じて情報公開している。

地区	対応	備考
小泉地区（中島海岸、津谷川・外尾川）	・H24.6.24の河川災害復旧計画について説明以降継続的に説明会を開催。 ・H25.7.30の検討ワーキング準備会開催以降、最終第7回検討会（H30.11.3）までを開催	第7回検討会では、工事の進捗状況と今までの主な課題・対応策について説明及び現地の確認を行い、「検討課題が整理された」ことから検討会の活動終了を提案し、了承された。
蒲生干潟	・H24.7.30の左岸復旧計画案の概要についての説明会開催以降、説明会を重ね、左岸変更計画案について再説明（H27.1.17）を実施。	干潟の保全のため、堤防位置を変更。
五間堀川	・地元住民代表との意見交換会	松並木を保全。
大谷海岸	・大谷里海（まち）づくり検討委員会と大谷海岸の整備計画について意見交換を重ね合意形成を行った。	堤防位置を変更し海水浴場、砂浜を保全。

（参考：小泉地区の検討体制）

小泉地区においては検討会と検討WGを立ち上げ、高水敷、防潮林、海水浴場といった複数の議題について検討、合意形成を行っている。

## 3. 検討会の構成

